

麻疹(はしか)及び・風しん(三日ばしか)の予防接種について

麻疹(はしか)・風しん(三日ばしか)について

(1) 麻疹(はしか)について

麻疹ウイルスの感染によって起こります。感染力が強く、飛沫、接触だけではなく空気感染もあり、予防接種を受けていないと、多くの人がかかり、流行する可能性があります。典型的なはしかは、高熱、せき、鼻汁、眼球結膜の充血、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は7～9人、肺炎は1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に1～2人の割合で発生がみられます。また、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は、はしか患者約10万例に1～2例発生します。

はしかは、医療が発達した先進国であっても、かかった人の約1,000人に1人が死亡するととも重症の病気です。

(2) 風しん(三日ばしか)について

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。典型的な風しんは、軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。年長児や成人では関節炎の頻度が高く、予後は一般に良好ですが、血小板減少性紫斑病や脳炎の合併を認めることがあり、まれに溶血性貧血もみられます。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠20週頃までに風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害を持った児が生まれる可能性が非常に高くなります。

麻疹風しん混合ワクチンについて

麻疹・風しん混合ワクチンは、麻疹ウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。1歳から2歳の間に麻疹又は風しんにかかる可能性が高いので、1歳になったらなるべく早く接種を受けましょう。

1回の接種で95%以上の子どもは、免疫を得ることができますが、つき損ねた場合の用心と、年数がたって免疫が下がってくることを防ぐ目的で、2回の接種が行われるようになりました。(第1期として1歳以上2歳未満で1回接種し、第2期として小学校就学前の1年間の期間に1回接種を行います。)

輸血をされたり、ガンマグロブリン製剤の注射を受けた方は、接種時期について医師と相談してください。

副反応

主な副反応は発熱や発疹で、その他注射部位の発赤、腫脹(はれ)、硬結(しこり)などの局所反応、じんましん、リンパ節膨張、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。また、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症およびけいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性があります。

対象者及び接種スケジュールについて

接種対象者(対象年齢)

1期

生後12か月以上24か月未満

※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。

※2期は、5歳以上7歳未満で、小学校就学の前年度の4月下旬に接種勧奨します。

1期

1回目接種

1歳以上2歳未満

2期

2回目接種

5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間(4月1日から3月31日まで)にある者

接種時に持参するもの

- ① 麻疹風しん予防接種予診票
- ② 母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)